４　南薩地域の特性を生かした稼げる野菜産地の育成支援

成果の要約

１　ピーマンでは，環境制御関係技術やＩＰＭ技術を導入する農家が定着しつつある。また，研修生や新規就農者の定着に向けた支援を実施した。
２　抑制かぼちゃの高地温抑制対策として，白黒ダブルマルチの効果は高く，砂丘地や畑での活用が期待され，高温抑制のための不織布設置省くことができた。
３　にんじんでは、品種比較や病害虫対策の実証を行い、品種特性把握や有望品種の選定、病害虫対策に向けた農薬使用方法等の改善策の整理が進みつつある。

１　対象

（１）ピーマン産地の育成
　ア　JA 南さつま加世田ピーマン部会 17 戸
　イ　JA いぶすきえいピーマン専門部５戸
（２）かぼちゃ産地の維持
　ア　JA 南さつまかぼちゃ部会 103 戸
（３）にんじん産地の維持・拡大
　ア　JA 南さつま南さつまにんじん部会 29 戸
　イ　JA いぶすきえい野菜部会
　　にんじん専門部 49 戸

２　課題を取り上げた理由

（１）ピーマン産地の育成
ア　スマート機器を活用した環境制御技術の改善により増収を図る必要がある。
イ　難防除病害虫が増加しており，安心安全な農産物を生産するため，天敵導入等の IPM 技術の普及を図る必要がある。
ウ　新規就農者の確保と，選果体制の支援を行い産地の維持拡大を図る必要がある。

（２）かぼちゃ産地の維持
ア　生産者の高齢化や生産性の低下により，産地の維持が課題となっている。
イ　夏季の異常な高温により，抑制かぼちゃの発芽不良や欠株が発生している。

（３）にんじん産地の維持・拡大
ア　にんじんは，高齢化等による生産者の減少が見られるものの，規模拡大志向農家がおり，産地の維持･拡大が期待されている。
イ　近年，気候変動の影響等により，発芽率の低下や病害虫発生の増加など栽培しにくい状況になっており，生産安定を図る必要がある。

３　活動の内容及び成果

（１）ピーマン産地の育成
ア　スマート機器を活用した技術確立支援
　合同研修会（写真１）等で環境制御技術の理解推進に努めた。新たにモニタリング装置を１名，統合環境制御機を１名，炭酸ガス発生器を３名が導入し，現在８名がハウス環境の把握と改善に活用している。
　また，土壌水分のモニタリングも６戸が活用しており，継続して pF 値に基づくかん水管理に役立てている。



写真１　合同研修会（７月８日）

イ　IPM 技術の導入
　安心安全な農産物生産を図るため天敵を活用した IPM 技術の普及を図った。
　その結果，スワルスキーカブリダニやタバコカスミカメなど天敵を活用する農家は全農家の８割まで普及・定着してきた。
ウ　新規就農者の確保・産地連携支援
　生産農家・関係機関と連携して新規就農者の確保・育成と産地連携に努めた。
　その結果，新規栽培者２名後継者１名がピーマン経営を開始し，２名の研修生が就農準備中で栽培技術指導を行った。
　また，加世田（JA 南さつま）と頴娃（JA いぶすき）が共同選果・共同計算することになり，産地の連携強化に向けた支援を行った。

（２）かぼちゃ産地の維持

ア　抑制かぼちゃの高温抑制対策

近年の気候変動による夏季の高温抑制対策として，マルチ資材の違いによる高地温抑制対策に取り組んだ。

畑，水田，砂丘地の３か所に実証展示ほを設置し，白黒マルチやシルバーマルチ，露地について，地温の変化を測定した。

イ　発芽時期の地温の変化

南さつま市の砂丘地では，夏季の地温が40℃以上にもなるため，スプリンクラー散水で地温を下げながらかぼちゃを播種している。白黒ダブルマルチは慣行のシルバーマルチより３～５℃地温を下げる効果があった。（図１，図２）

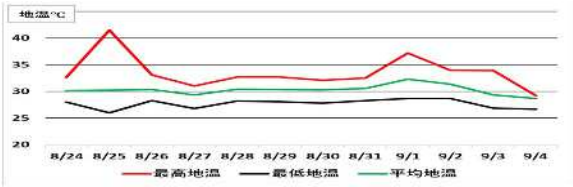


図１　シルバーマルチの地温変化（砂丘地）

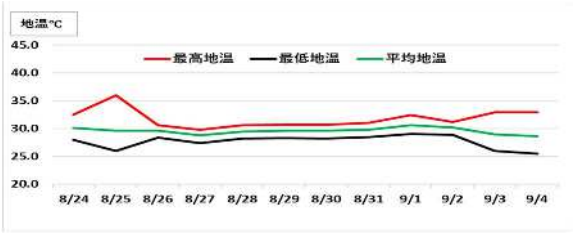


図２　白黒ダブルマルチの地温変化（砂丘地）

イ　発芽率の向上

また，水田や砂丘地では白黒ダブルマルチがシルバーマルチより５%程度発芽率が高かった。（図３）また，根群を調査した結果，白黒ダブルマルチの根量が多かった。（写真 2,3）

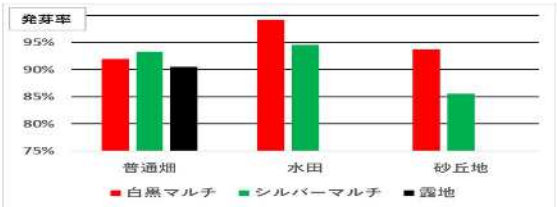


図３　マルチ別発芽率の違い





写真２（シルバーマルチ）　写真３（白黒ダブルマルチ）

ウ　普及性と今後の対応

白黒ダブルマルチの高地温抑制効果は高く，砂丘地や畑での活用が期待され，高温抑制のための不織布設置も省けたので，今後は展示か所を増やして普及に努める。

（３）にんじん産地の維持・拡大

ア　講習会等による啓発活動

講習会を通じ，病害対策等による生産安定対策の啓発を行った。

イ　実証活動による収量・品質向上

気候変動等の影響で栽培しにくくなっていることから，品種比較（11 品種，２播種日）やしみ腐病やセンチュウ等の病害対策実証ほを設置し，生産安定対策に取り組んだ。今後，品種特性の整理や有望品種の導入，病害虫対策の改善を図る。（写真４）



写真４　品種比較実証の状況（形状評価）

（４）今後の課題

（１）ピーマン産地の育成

ア　スマート機器の活用技術の向上と普及

イ　ホコリダニや斑点病等対策の徹底

ウ　新規就農者の経営確立に向けた継続的な支援

（２）かぼちゃ産地の維持

ア　春かぼちゃトンネル作型の単収向上

イ　夏季高温抑制対策の推進

（３）にんじん産地の維持・拡大

ア　病害対策による生産の安定化

イ　有望品種選定と導入による生産性の向上

４　担当した普及職員（〇はチーフ）

〇柳川　上吹越　坂上　井出